



「都市デザイン」という名前に惹かれて

高校の時の勉強は、友人と一緒に勉強するのが楽しかったです。部活は科学部に所属していて、今思えばその時からサイエンスへの興味はあったのだと思います。進路決定の際も理系に進もうと自然に考えていて、工学部や理学部よりも「都市デザイン学部」という学部名に惹かれて富山大学都市デザイン学部への進学を決定しました。

「思ってたのと違う」から「楽しい」へ

入学時、都市デザイン学部の3学科の特色をきちんと理解できていませんでした。入学直後のオリエンテーションで自己紹介をするときに「出身地と地元の地球システム的な特徴を話す」というお題があり、そこで初めて「あ、地球システム科学科って地学メインなんだ」と気づきました（笑）

最初は、フィールドワークで山や沢など足場の悪いところへ行くことに、抵抗がありました。あるとき、調査地域で「すごい地形だね！」と感動している先生の姿を見て、その「すごさ」を理解できるようになりたいと思い、真剣に地学の勉強をしてみようと思うきっかけになりました。

地学的発想で、いろんな場所での感動に

地球システム科学科では、福井の恐竜博物館や新潟のフォッサマグナミュージアムなど、教授の解説付きでのフィールド演習があります。希望制での参加ですが、その活動を通してさらに地質に惹かれていきました。地学の知識を得たり、先生方の影響もあり、4年次には「地層が美しい」と思うほどになりました（笑）研究室は、活断層をテーマに研究している立石先生の研究室を選びました。

先輩と同じテーマを、違うアプローチで

地学の面白みに目覚めたこともあり、学部修了後は大学院に進んで研究を続ける道を選びました。学部の卒論で研究した活断層の研究と同じフィールドでの研究を続けたいと指導教員の立石先生に相談したところ、韓国で1つしか論文がでていない最新の研究があるということで紹介いただいたテーマで研究を進めることになりました。

川崎研究室の博士課程3年の先輩と、同じ対象をそれぞれの違うアプローチで解析した結果、日本活断層学会2024年学術大会で若手優秀講演賞をW受賞することが出来ました。学年は重なっていませんが、高校の先輩であり尊敬している澤田さんに引っ張り上げてもらってここまで来たという感覚があります。



母校の後輩へ

周りの友達とお互いを高め合ってください。僕はラッキーなことに入学後に意識が変わりましたが、大学で学ぶ学問分野については、高校時代にしっかりと調べて検討してください。